

部局名

農学部獣医学科

担当: 山田健太郎

活動内容

大分県深島での地域ネコ健康調査 ～ 持続可能な地域ネコとヒトの共生プロジェクト ～

🐾 深島について

宮崎県境に近い大分県蒲江港から定期船で30分の距離にある離島ですが、「猫の島」としても有名です。現在、深島には島民12人に対して、70匹の猫が地域猫として暮らしています。かつて島には200匹以上の猫がいましたが、2019年に多くの猫が感染症の蔓延で死亡してしまいました。このとき、島の方々は適切に管理することの必要性を実感し、まずは全ての猫たちにTNR（Trap捕獲／Neuter不妊手術／Return元の場所に戻す）とワクチン接種を実施しました。島の猫たちは、島の方々とボランティアにより餌やりやトイレなどのお世話がされており、一匹ずつ名前もつけられ、不自由少なく暮らしています。



深島で生活するネコ

🐾 プロジェクト実施に至った経緯

島の関係者から島の猫たちの将来について私達に相談があり、これからの深島の猫たちと島民の共生のあり方についてお考えを伺ったことが始まりです。持続的な共生のためには猫たちを継続して獣医学的ケアにつなげることが必要になりますが、島には動物病院はなく、猫たちに突然何かあった場合、すぐに獣医療を受けることは容易ではありません。そこで、病気の予防や早期発見には平時から猫たちの健康状態を把握することが重要と考え、2023年度から、本学獣医学科教職員が協力して猫たちの健康調査を年1回行っていくことになりました。

🐾 活動状況 (2023.11.3)

獣医学科動物病院研究室・獣医公衆衛生学研究室およびCADICの教職員・学生（留学生を含む）の総勢16名が深島に上陸しました。屋外でトラップや洗濯ネットなどで猫を捕獲して鎮静剤を投与するグループと、臨時動物診療施設となった深島公民館の中で猫の健康診断、採血・採便およびワクチンとノミ・マダニ駆除薬の投与を行うグループに分かれて実施。学生もstudent doctorとして教員の指導もと採血やワクチン接種などを行いました。今回、島の猫48匹について健康調査等を行い、持ち帰ったサンプルについて各種検査を行いました。私達はこの活動を通じて、持続可能な地域ネコとヒトの共生モデルの構築を目指しています。



蒲江港から深島に向けて乗船



島猫がお出迎え



猫の健康調査実施を知らせる看板